

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 株式会社フジコー		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 804-0011 福岡県北九州市戸畑区中原西2丁目18-12	
本票作成	部署名：総務室				
主たる業種	分類コード	22	業種名：鉄鋼業		
事業の概要	①複合金属製品（ロール製品）の製造・販売・補修 ②複合金属製品（原料工程向製品）の製造・販売・補修 ③環境プラント製品の製造・販売・補修 ④操業関連作業 ⑤産業機械等の設計・製作・据付 ⑥光触媒製品の製造・販売				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	山陽工場		岡山県浅口市鴨方町鳩ヶ丘1丁目1298番地	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				
温室効果ガス排出量	基準年度 (平成 28 年度)	(令和 3)年度排出量		目標年度(令和 3 年度)	
	4,981 t CO ₂	3,831 t CO ₂		4,931 t CO ₂	
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称		(令和 3)年度排出量	
	①	山陽工場		3,831 t CO ₂	
				t CO ₂	
				t CO ₂	
				t CO ₂	
				t CO ₂	
削減目標の達成状況	計画期間：平成 29 年度 ～ 令和 3 年度 (5 箇年度)				
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(3) 年度削減実績		目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	36.8	%	5.0 %	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達
(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 CPC母材重量+溶解重量(t)		原単位当たり排出量		
			基準年度	(3) 年度	目標年度
			2.160	1.365	2.052
		t CO ₂ /(t)	t CO ₂ /(t)	t CO ₂ /(t)	
(該当事業者のみ記入)					
ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(令和 3 年度)	達成率等	
【削減状況の自己評価】					
5年計画において、基準年度より5%の削減目標をかかげ平成29年度よりスタートした最終年として、対前年度より9.5%、基準年度である平成28年度より36.8%の温室効果ガスの削減ができたことは評価できる。一番の大きな要因として、2021年度の前半は生産量がコロナ影響も落ち込み、原単位の基準になる「CPC母材重量とCPC溶解重量」も低い数値で低迷したが、後半においては、生産量との関係も加味し、全ての月においては昼夜連続操業を実施し、熱ロス回避したことで、挽回できました。(7ヶ月)。さらに、2020年度は工場内照明を全てLED化し、2021年度は電気設備室の空調機を省エネタイプに更新を行いました。このことで、工場内の空調設備は全て省エネに適応した設備に更新できました。					

【推進体制】

- ・省エネ法に基づくエネルギー管理統括者（本社）を中心とし、事業所におけるエネルギー管理者をリーダーとして管理体制を整備。
- ・エネルギー管理者を中心とした省エネ推進会議を定期的開催し、効率的な設備活動を実施、検証及び省エネ立案、検討を行う。
- ・本社主催の省エネ研修に管理職が参加し、省エネ意識の向上に努めました。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
フジコー山陽工場	(令和3年度実施分) ・設備課電気室のエアコンを省エネタイプに更新 ・2020年度同様、可能月においては、昼夜連続操業を実施し、熱ロスの回避の実施 (今後実施予定分) ・CPC冷却水ポンプの適正化の実施（3台）による省エネ改善 ・2021年度同様、可能月においては、昼夜連続操業を実施し、熱ロスの回避の実施の継続

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

--